

クラムザッハ
高校生派遣レポート



まちで見つけた絆 奥原 恵さん(17)

姉 妹都市のPRの仕方に違いを感じました。まちとまちの境にある「ここからは〇〇」という標識。クラムザッハではその表示の下に「PARTNERSTADT in Japan AZUMINO」と安曇野が姉妹都市だということが書かれていました。安曇野でもこのような看板を作って、広められればいいなと思います。

また、市役所などに紹介スペースを作ったり、小中学校のオーストリア給食を増やしたりして若い世代に知ってほしいです。



看板にも安曇野との絆が！



街 並みの美しさが1番印象的でした。まちを歩くと、ごみ箱が数分ごとに設置されていて道路にはごみが一つも落ちていませんでした。こうしたことから、国全体で歴史や文化、自然環境の保全に高い意識を持ってSDGsに取り組んでいると思いました。

また、現地の皆さんはみんな顔見知りのように仲が良く、人と人との結びつきが強いと感じました。家族のように迎えてくれたホストファミリーとの別れの日には涙が止まりませんでした。

今後は、リモートやSNSで互いの魅力を伝えていきたいです。



SDGsが浸透しているまちでした

環境に配慮したまち 村田 心紬さん(17)



アコーディオン演奏で温かいもてなし

- 特集 - 安曇野 × クラムザッハ

次世代がツナグ絆

私たちが新たな架け橋に！



交流で生まれた縁を大切に つなぎ続けている安曇野と姉妹都市・クラムザッハ。この春、高校生8人がクラムザッハを訪問し交流しました。今号では、これからの交流の架け橋としてこれまでのあゆみを受け継ぐ若い力をレポートします。

国際政策経営課 TEL71-2401

架け橋となる 若い世代を派遣

雄

大なるアルプスと豊かな自然が広がる人口約5000人の町・オーストリア共和国チロル州クラムザッハ。安曇野とどこか似た風景と街並みがあるこの町と旧豊科町が姉妹都市提携を結んだのは、今から32年前。安曇野市となった後も互いのまちを行き来して、温かい交流が受け継がれてきました。

提携から30年の節目を迎えた令和5年、市とクラムザッハは今後の交流について意見を交わし、さらなる発展のためには将来を担う若者たちの交流が必要であるという考えで一致しました。そこで市は高校生を対象にクラムザッハへの派遣者を募集。65人から申し込みがあり、その中から8人の皆さんが本年3月11日～22日にクラムザッハなどオーストリアの都市を訪問しました。

Pick Up

まちに溶け込むやさしさ

環境に配慮する暮らしが根付いているクラムザッハ。美しい自然や街並みを保つため、家庭でも細かいごみの分別が習慣になっています。また、何といても1番の魅力はそこに暮らす人の温かさ。訪問した高校生も現地の皆さんと言葉を交わし、振る舞いや親しみやすさに感銘を受けていました。姉妹都市として交流を深めてきたまちには、環境と人に対するやさしさが溶け込んでいます。



Day5-6 ■夕食交流会



Day4 ■青少年クラブを訪問



同世代とボードゲームで交流

Day1-3 ■クラムザッハ到着
ガラス専門学校等を見学



養蜂場を見学
ハチミツの生産も盛んです



Memo

最初に訪れたのはガラス専門学校。あづみ野ガラス工房が開設された翌年の1986年に旧豊科町の皆さんが訪れ、交流が始まりました。

ラッテンベルクの美しい街並み



Memo

友好会の皆さんやホームステイ先のホストファミリーと夕食会で交流。過去の交流の思い出を聞き、友好の深さを実感しました。